■ 柏谷メソッド 令和4年度予備試験 / 令和5年度司法試験合格者インタビュー(笹原侑子さん:仮名)

[インタビュアー]
本日の合格者インタビューでは、令和4年に予備試験、令和5年に司法試験に合格された笹原優子さんにお話を伺います。笹原さん、よろしくお願いします。

[笹原さん]
よろしくお願いします。

[インタビュアー]
それでは簡単で結構ですので自己紹介をお願いいたします。

[笹原さん]
柏谷メソッドでインプット講座、アウトプット講座を受講しまして、法科大学院在学中の令和4年度の予備試験に合格し、令和5年の司法試験に合格しました笹原優子と申します、よろしくお願いします。

[インタビュアー]
法科大学院に在学中に予備試験に合格されたということですが、予備試験に挑戦してみていかがでしたか？

[笹原さん]
そうですね、かなり苦戦したのですが、何とか合格できてよかったなと思っています。

[インタビュアー]
柏谷メソッドを受講される前に、合格されるうえでご自身が課題だと感じていたのはどんなことですか？

[笹原さん]
柏谷メソッドを受講する前は、予備試験の短答式すらわからない状態だったのですけれども、先生の講座を受講してからは次の年の短答式の点数が50点ぐらい伸びて。一般教養なしでも合格できる状態まで法律の点数が伸びたので、その点がよかったかなと思っています。

[インタビュアー]
翌年に50点というと、ずいぶん伸びましたね。

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
論文式のほうで手こずるかたも多いですが、そもそも短答式の段階から課題があったと。
[笹原さん]
そうなんです。

[インタビュアー]
ちなみに、講座と出会ったきっかけは何だったのですか？

[笹原さん]
予備試験合格者の先輩からおすすめしていただいて柏谷メソッドの存在を知りました。

[インタビュアー]
その先輩が受講されていたということですか？

[笹原さん]
そうですね。動画にもたまに出演されている渡辺駿さんという先輩が柏谷メソッドを受講されていて、教えてくださいました。

[インタビュアー]
渡辺さんからはどのようにご推薦の言葉がありましたか？

[笹原さん]
（渡辺さんは）柏谷先生のことを崇拝されていて、「受講したほうが近道だよ」ということで、かなり強く「いいよ」とおっしゃっていました。

[インタビュアー]
渡辺さんはどんなところがいいと感じていらっしゃったのでしょうか？

[笹原さん]
暗記に頼らないで思考過程をちゃんと組んで答案を書くというところが柏谷メソッドの一番いいところだとおっしゃっていました。

[インタビュアー]
渡辺さんからそのお話を聞いて、笹原さんはホームページか何かをご覧になったのですか？

[笹原さん]
まずはホームページを見て、先生の講座の切り抜き（サンプル動画）を確認して、いいなと思って申し込みました。

[インタビュアー]
決め手は何でしたか？

[笹原さん]
やはりそのときは短答式でつまずいていたので、渡辺さんが教えてくださった短答式の解き方がすごくクリティカルだったことから「柏谷先生に教わったらすごく伸びるんじゃないかな」と感じ、ぜひ教わりたいなと思ったことが大きいです。

[インタビュアー]
伸びそうだと想像したのですね。

[笹原さん]
その通りです。

[インタビュアー]
想像通り、伸びましたね。

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
講座を受講してみての感想をお伺いしたいのですが、インプット講座を受講してみていかがでしたか。

[笹原さん]
まず、内容がすごく濃くて。あとは、聴くだけで本当に思考過程が伝わってくるので、聴く度に新たな発見があるというか。なので、何回も何回も聴くと、どんどんどんどん新しいことが頭の中に入ってくる感覚になる講座だと思います。

[インタビュアー]
何回ぐらい繰り返して聞かれましたか。

[笹原さん]
数え切れないぐらいなのですが、十数回以上かなと思います。

[インタビュアー]
すごいですね、十数回も聞かれると、相当たたき込まれる感じですね。

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
先ほど内容が濃いとおっしゃいましたが、それはどういう意味でしょうか？

[笹原さん]
「後で読んでおいてね」とか「確認しておいてね」とかではなく、一つひとつの内容を先生が噛み砕いて、「原理原則から考えるとこうなるよ」ということを言語化してくださるので、そういう意味で濃いなと思います。

[インタビュアー]
わからないことを後回しにするのではなく、その場で全部解決して理解できるという感じでしょうか？

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
なるほど。短答式に課題があり、実際にインプット講座を受講してみて「これはかなりいけそうだ」というふうに感じられましたか？

[笹原さん]
そうですね、思いました。

[インタビュアー]
アウトプット講座のほうはいかがでしたか。

[笹原さん]
アウトプット講座もすごくよくて。形式面と内容面との両方を見てくださる講座はなかなかないですし、あとは先生自ら添削してくださる講座も他の予備校ではほとんどありえないと思うので、そういう点がとてもよいと思います。

[インタビュアー]
形式面と内容面というと、具体的にはどのようなことでしょうか？

[笹原さん]
まず先生は何ページまで書けているかを必ずチェックされます。「このぐらいの分量でも大丈夫ですよ」とか「もうちょっと書けるといいですね」とか、そういうところから始まり、ナンバリングが正しく打てているか、読める文字で書かれているかなども指摘します。そういう点は意外と当たり前のこととして扱われていて、言及されることは他の予備校ではあまりないと思います。

[インタビュアー]
なるほど。

[笹原さん]
意外とそういうところでつまずいて試験員に減点されていることはあるのではないかと個人的に思っていて、そういうところまで指摘してもらえるのがいいなと思います。

[インタビュアー]
人によっては目からうろこかもしれないですね。

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
取りこぼしをせずに済むということですね。

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
内容面に関しては、柏谷講師が直接自ら添削してくれるところがよかったのですね。

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
法科大学院での学修も同時に進められていたと思うのですが、そちらの学修とこちらの講座をどのように使い分けていらっしゃいましたか。

[笹原さん]
法科大学院のほうは、私はあまり力を入れていなくて。柏谷先生の講座でほぼほぼ足りてしまうので、そちらをメインにして、（法科大学院の授業のなかで）それなりに有意義そうなことがあれば柏谷先生のインプット講座のレジュメに書き足す形で内容を一元化していました。

[インタビュアー]
こちらの講座をメインにして、法科大学院での学修をプラスアルファにする感じだったんですね。

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
改めて、他の予備校や教材と比べてこの講座の魅力がどのような点にあるか、他にも思いつくことがあればぜひ教えてください。

[笹原さん]
まず、論文のアウトプット講座だと、講師答案例というのがあるのですけれども、それはとても現実的な答案として先生が考えられたものです。詰め込みすぎず、でもこれを書けたら絶対に予備試験の論文でも取れるよねという充実した現実的な答案はなかなかないので、そういう点がまず他の予備校さんと違うかなと思います。

[インタビュアー]
なるほど。

[笹原さん]
あともう1つは、先生との距離感が他の予備校さんとは比べ物にならないぐらい近いなと思っていて。「Studyplus」というアプリで毎日の学修報告ができて、わからないことがあるとそのアプリを使って先生に質問ができ、だいたい24時間以内ぐらいに先生が返答してくれました。先生との距離感も近いですし、不安なことがあれば面談もすぐしてもらえて、その面談を通して直接ご指導いただくこともできるので、そういう意味で他の予備校さんと違うなと思います。

[インタビュアー]
身近で伴走してもらえるのは心強いですね。

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
質問をするなど、どれぐらい「Studyplus」はご利用になっていましたか？

[笹原さん]
勉強時間を記録するためにほぼ毎日立ち上げていました。質問も1週間に1回か2週間に1回かぐらいのペースでしていたのではないかなと記憶しています。

[インタビュアー]
勉強時間は毎日どれぐらい取っていらっしゃったのですか？

[笹原さん]
具体的にはあまり覚えていないのですが、毎週発表される（勉強時間の）ランキングに載れるように頑張ろうという心持ちで勉強していたので、それなりにやっていたのではないかなと思います。

[インタビュアー]
「他の人も頑張っているな」と、1人で勉強しているわけではないと勇気づけられそうです。

[笹原さん]
はい、負けたくないという気持ちも芽生えますね。

[インタビュアー]
受講前に課題だと感じていた点は、翌年の受験で見事にクリアできたということでしたね。

[笹原さん]
はい。

[インタビュアー]
講座を受講していて「これは来年はいけるのではないか」と思ったのはどのような瞬間でしたか？

[笹原さん]
短答式の点数が伸びたときもそうですし、あとは論文です。予備試験の論文式は3回受けたのですが、最初が1500位で、次の年が700位ぐらい、最後が300位くらいだったので、毎年半分ずつぐらいの順位になっていき、そのようなときに「ちょっとずつ伸びてるのかな」と思いました。

[インタビュアー]
本当に綺麗に半分ずつ伸びましたね。こんなに綺麗に成果が出るのも珍しいかもしれないですね。すごく手応えを感じますよね。

[笹原さん]
そうなんですよね。

[インタビュアー]
柏谷講師の教えの中で、何か心に残ってることや胸に刺さったアドバイスなどはありましたか？

[笹原さん]
「自分の講座と他の先生の講座は山の登り方が違うよ」というご指導があって、確かに暗記型や論証パターン型だったら私は心が折れていたんじゃないかなと思うので、その点が結構記憶に残っています。

[インタビュアー]
柏谷メソッドのやり方は笹原さんにとてもよく合っていたと。

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
勉強を続けるなかで、モチベーション維持に関して、「つらいな」と思うようなことはありましたか？

[笹原さん]
やはり予備試験の受験回数も結構増えていたので、そういう点ではちょっとつらいなと思うことはありました。

[インタビュアー]
そういうときに先生にご相談されるようなことはありましたか？

[笹原さん]
適宜、先生には面談などしていただいていました。

[インタビュアー]
面談でどんな言葉をかけてもらいましたか？

[笹原さん]
予備試験の論文の結果が出て駄目だった場合はその後に面談を組んでいただいて、これからの学修方法などについて一緒に考えてもらっていました。これからの勉強方法について提案していただくと少し前向きな気持ちになれていました。

[インタビュアー]
途中で勉強の仕方を少し変えたりというようなこともありましたか？

[笹原さん]
先生のアドバイスを受けて少し変更することはありました。

[インタビュアー]
具体的にはどのように？

[笹原さん]
アウトプット講座の添削をしていただいたときに、講座内の講師答案例で何回か出てきていることを自分の答案にうまく書き出せていないよねとの指摘が先生からありました。いつも同じところで同じ論点から書けなくなることに気づき、過去問を復習する際は「取っておいたものを復習して終わり」ではなく、余白に解き直してからそれをファイリングして定期的に見直すようになりました。それからは論文の点数もぐっと上がるようになりました。

[インタビュアー]
それはすごく効果がありそうですね。自分の苦手な部分、落としがちな部分をちゃんと頭に入れておくということですね。

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
弱点みたいなものは自分だとなかなか気づきにくいところがあると思いますが、そういうところも先生が指摘してくださるのですね。

[笹原さん]
そうですね。

[インタビュアー]
柏谷メソッドの講座はどんな人に向いていると思われますか？

[笹原さん]
結構万人向きだと思うのですけれども、暗記が苦手なかた、あとは予備試験の特に短答式で悩まれているかた、論文で点数が伸びないかた、複数回受験のかたなどに向いていると思います。

[インタビュアー]
複数回受験をすると気持ち的に追い詰められるところもあると思いますが、そのような場合でも柏谷講師は励ましてくれるのでしょうか？

[笹原さん]
そうですね、おそらく複数回受験のかたでも励ましてくださると思います。

[インタビュアー]
笹原さんは見事合格をされたわけですが、今後は法曹の資格をどのように生かしていくおつもりでしょうか？

[笹原さん]
法律問題は自分たちが思っている以上に身近で多く起こると思うので、少しでも困っている人の役に立てるように自分の資格を生かしていけたらなと思っています。

[インタビュアー]
最後の質問です。今回の音声動画をご覧の皆さんや、これから受講を検討しているかたに向けて何かアドバイスやメッセージがあればお願いいたします。

[笹原さん]
柏谷先生は本当に受験生のことを第一に考えてご指導してくださる先生なので、受講して絶対に損はないと私は個人的に思っています。もし少しでも興味があればぜひ先生と面談してみて、講座を受けていただければなと思います。

[インタビュアー]
ちなみに、笹原さんは受講前に面談をされたのですか？

[笹原さん]
たしか、したと思います。

[インタビュアー]
そうだったのですね。合格、本当におめでとうございます。本日はありがとうございました。

[笹原さん]
ありがとうございました。